

データソースの保存とパブリッシュ

「データソースの保存とパブリッシュ」についてのトレーニングによるこそ。

付属の練習ワークブックをダウンロードして、実際に Tableau を操作してみてください。なお、このトレーニングの一部では Tableau Online または Tableau Server へのアクセスが必要となります。

メタデータの管理やフィールドの別名の変更、計算の作成、デフォルト色の設定などに労力を費やすと、これをまた後で使うためにすべて保存しておきたいと思うこともあるでしょう。データソースはローカルに保存できるので、自分の Tableau Desktop で簡単に再利用することができます。なお、データソースの共有を安全に行うため、Tableau Online または Tableau Server にパブリッシュすることもできます。

データソースの保存

データソースを保存するには、データソースを右クリックして [保存されたデータソースに追加] を選択します。

- これで、.tds ファイルとして接続を保存することができます。ただしここで保存されるのは、データ自体ではなく接続情報のみです。
- このデータソースは、[接続] ペインの [保存されたデータソース] の一覧に表示されます。

データソースをパブリッシュする理由

データソースは、Tableau Online または Tableau Server にパブリッシュすることもできます。パブリッシュすると、データソースは必要なパーミッションを持つユーザーなら誰でも使用することができます。ユーザーがドライバーのインストールやデータの準備、キューレーションを行う必要はありません。パブリッシュ済みデータソースを使用するワークブックはすべて、データの更新や変更があったときに自動的に更新され、単一ソースの整合性を保ちます。

データソースのパブリッシュ

データソースをパブリッシュするには、データソースを右クリックするか、[サーバー] メニューを開きます。

メニューの最初には、サインインしている Tableau Online または Tableau Server サイトの情報、またはサインインのオプションが表示されます。データソースのパブリッシュ先はいつでも変更することができます。

次に [データソースのパブリッシュ] をクリックし、パブリッシュするデータソースを選択します。

- データソースを関連付けるプロジェクトを選択します。
- 必要に応じて、データソースの名前を変更することができます。組織内で命名規則を決めておくと役立ちます。
- 説明を追加し、他の人にも何のデータソースかが分かるようにします。
- タグの追加も可能です。
- パーミッションがプロジェクトにロックされていない場合は、ここで定義することができます。
 - 保存、ダウンロード、データソースへの接続のみなどのパーミッションを指定できます。
- データソースへの接続に認証資格情報が必要な場合は、ここで設定が求められます。ユーザーに認証資格情報の入力を求めるか、情報を埋め込んでおきます。

- このオプションでは、ワークブックを更新してパブリッシュされたデータソースを使用することができます。データソースに変更があった場合にワークブックを最新の状態に保つのに便利です。
- このボックスが選択されていない場合は、引き続きワークブックのデータソースに変更を加え、それを使用してパブリッシュされたデータソースを編集することができます。

パブリッシュされたデータソースの編集

パブリッシュされたデータソースを編集するには、オリジナルに接続する必要があります。たとえば、階層からフィールドを削除し、計算を追加して、データソースを再度パブリッシュできます。元のデータソースは上書きされます。

これで、このデータソースを使用したワークブックはすべて新しいデータ構造で更新され、単一ソースの整合性を維持することができます。

Tableau Online への抽出のパブリッシュ

ライブ接続をパブリッシュする場合は、ここを省略して次の「パブリッシュされたデータソースの使用」に進んでください。Tableau Server に抽出をパブリッシュする場合は、「スケジュールとサブスクリプションについて」のビデオで詳しくご覧ください。

抽出を Tableau Online にパブリッシュする場合、同期クライアントでこの抽出ファイルを更新するのが最も簡単です。

Tableau Online に切り替えて、サイトを選択します。データソースをパブリッシュすると、ダイアログに同期クライアントの使用に関する情報が表示されます。[同期クライアントを使用したスケジュール] をクリックして開始します。

- 同期クライアントが開始する個所を選択します。
- ここで、スケジュールを設定できます。

詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

ファイルタイプについて

ファイルタイプについては、すでに .tds ファイルを紹介しました。ここで簡単に、Tableau のファイルタイプとデータとの関係について説明します。

- .twb ファイルはワークブックです。情報はデータへの接続方法とビュー作成方法だけです。データは含まれていません。
- .tde ファイルは Tableau データ抽出のファイルです。 .twb ワークブックファイルから抽出が作成されたときに生成され、 .tde ファイルの保存場所を選択するようメッセージが出ます。
 - .tde ファイルには、ほかのデータソースと同様に接続でき、ワークブックから独立しています。
 - .tde ファイルは、データを Tableau で効率的に分析できるフォーマットで作成された、単なるローカルコピーです。
- .twbx ファイルはパッケージドワークブックです。 .twbx で保存しただけでは、データは自動的に含まれません。しかし、ワークブックを .twbx で保存した後でデータを抽出すると、独立した .tde ファイルは生成されず、パッケージドワークブックにその抽出データが入ります。つまり、データは「パッケージ」の一部となります。

- .tds ファイルは Tableau のデータソースで、実際のデータは含まれず、結合やデータソースの場所などのデータ接続情報と、階層、計算、色などのメタデータのみが含まれます。
 - .tds ファイルは [保存されたデータソースに追加] すると生成されます。.tde ファイルと同様に、.tds ファイルの場合も、ユーザーに対し保存場所を選択するようメッセージが表示されます。
- .tds ファイルを保存するときは、ファイルタイプを .tdsx に変更することもできます。これはパッケージ化されたデータソースで、本質的には .tds ファイルと .tde ファイルを合わせたものです。パッケージ化されたデータソースには、すべてのメタデータ情報に加えてデータ自体が含まれています。.tdsx ファイルを送信するということは、データとメタデータの両方を送信することになります。なお、この場合データは暗号化されません。
- ただし、データへのアクセスを共有するのに最も簡単な方法は、データソースをパブリッシュすることです。

まとめ

データソースのトレーニングビデオをご視聴いただき、ありがとうございました。引き続き、Tableau の使用方法の無料トレーニングビデオをご覧ください。